



褒め褒め月間

松の実恒例の「褒め褒め月間」がやって来ました。

昨年4月に進級し、新しいお友達を迎えて1年になろうとしています。保護者皆様の温かい応援と賞讃を浴びながら、子どもたちは成長という階段を確かな足取りで上って来ています。

3月は、この1年の総まとめとして「褒める」ことを続けて参ります。

「人は誰でも自分自身の事を価値ある存在だと思いたい。」

「人は誰でも他人からも自分の事を価値ある存在だと認めて欲しいと願っている。」

つまり、人間は生まれながらにして自分を認めてもらい、自分の存在価値を確かめ、高めていきたいという欲求を持っているのです。

これを「自己重要感」とも言いますが、幼少のころから褒められる体験を多くして育んでいきたい大切な感情です。

この感情は生涯の人間性を支えています。

しかし、残念なことに欠点は目につきやすいのに長所は見えにくいものです。

ですから、褒めるためには絶えず子どもに関心を払い、長所と同時に子どもが今、何を感じているかを探し出す熱意が必要になります。

子どもが今ここで感じていることの中で、喜んだり満足したり、何かをやり遂げたという達成感をしっかりと受け止めてあげる。

それが褒めることになるのです。子どもの中の心に湧き上がる「頑張った! やった! できた!」という漠然とした形での喜びをしっかりと受け止めてもらうことによって、子どもは手ごたえのあるものとして喜びや達成感・満足感を生き生きと実感することができるようです。

満足感や自信は自分の価値を自らが認める自信になり、自信がやる気と意欲へと発展していくのです。

『満足感↓自信↓意欲』という心の育ちの法則性に添って、3月もまた褒めて褒めて満足感をたくさん味わわせ、自信を高め、意欲と勇気を湧き立たせてあげたいと思います。

保護者様、

どうぞお子たちのこの1年の心と体の成長の幅と高さの重さを褒めてあげてください。

そして、生まれてくれたあの日から今日まで、お子たちから受けた喜びと驚きと感動を、愛のシャワーにして振り注いでこられたご自身を、ご自身で褒めてあげてください。

「褒め褒め月間」は子どもたちには勿論、ご家族みなさまのためにも毎年間違い無く巡って来られます。

年度の終わりにこの一年、褒め褒め年間だったと思っていたことができれば、子どもたちは自信を持って次のステップへと進んでいくことができます。

園長 福田孝子